

平成28年度  
防災アンケート調査報告書



浜松市浜北区自治会連合会

調査研究委員会

浜北区自治会連合会調査研究委員会「防災アンケート」

浜北区自主防災隊連合会93隊中91隊が回答（回答率98%）

1 洪水を想定した訓練について

(1) 洪水を想定した訓練の実施状況について

ア 現在実施している	1隊	1%
イ 今後実施する	3隊	3%
ウ できたら実施したい	46隊	51%
エ 実施しない	41隊	45%
計	91隊	

→ 国土交通省の説明会を開いている。  
(中瀬5区)

「今後実施する」および「できたら実施したい」と考えている隊が半数あり、関心の高さが伺えます。

「実施しない」については、地理的に洪水の危険性の低い浜名地区の高台の地域や、河川から離れている赤佐・亀玉地区の割合が高くなっています。

また、善地および高菌では、連携して36名の水防団を有しているとのことでした。

(2) 洪水に対応するためのゴムボート等について

ア ゴムボート等を購入済み	0隊	0%
イ 今後購入する	0隊	0%
ウ できたら購入したい	10隊	11%
エ 購入する予定はなし	80隊	89%
計	90隊	

(3) 茨城県常総市の鬼怒川堤防決壊では、水防団が住民の避難指示対応に当たったため、本来の水防団活動である堤防への土嚢積みなどができませんでした。このことが被害を拡大した一因ともいわれています。

住民が避難勧告や避難指示に対して自ら判断し行動することが原則です。自主防災隊として、この事例を活かす方法は。〔複数回答有〕

ア 市、自治会及び自主防災隊の繰り返しの啓発が大事である	36隊	38%
イ 難しいが、訓練に取り入れる	10隊	10%
ウ 自主防災隊活動の限界を超えている	43隊	45%
エ その他	7隊	7%
計	96隊	

大きな河川の堤防決壊については、多くの隊が「自主防災隊活動の限界を超えている」と感じています。市等による啓発活動の必要性を求めています。

「その他」と回答した隊からは、「災害に対し、まさかという事例を考え、更に深く追求していく必要がある」や「堤防決壊時に、自主防災隊としてどのような行動をとればよいかわからない」といった意見がありました。

## 2 防災訓練の実施方法等について

- (1) 小松八幡自主防災隊では、夜間の防災訓練を実施しています。貴自主防災隊では実施していますか。

ア 現在実施している	0隊	0%
イ 今後実施する	1隊	1%
ウ できたら実施したい	59隊	65%
エ 実施しない	31隊	34%
計	91隊	

→ 防災隣組 による安否確認を展開した初期の頃、地震発生を秋の18時とし、19時からの隣保・班長会に報告をしていただく訓練をしたことがあります。  
(小松八幡)

「できたら実施したい」という回答が65%あり、夜間の防災訓練の必要性を感じている隊が多いことがわかります。

「実施しない」としている隊では、人員や人材の不足、住民の方の理解、夜間に行うことによる危険性に課題があるとしています。

まず昼間の防災訓練を充実させることを優先させたいといった意見もありました。

- (2) AEDの設置及び訓練について

ア 現在自治会で設置済みであり訓練も実施している	4隊	4%
イ 今後設置し訓練も実施したい	38隊	43%
ウ 訓練は実施しているが、設置の予定はなし	32隊	36%
エ 設置も実施もしない	15隊	17%
計	89隊	

「訓練を実施している」隊や「今後訓練を実施したい」と考えている隊はかなりの割合となっていますが、AEDは高額であり、自治会での設置は難しいと回答されています。

地域内の企業や店舗に協力していただいているという回答もありました。

- (3) 要支援者を対象とした訓練について

ア 現在実施している	8隊	9%
イ 今後実施する	11隊	12%
ウ できたら実施したい	59隊	65%
エ 実施しない	13隊	14%
計	91隊	

現在実施している隊は、東町、染地台4丁目、東美蘭、貴布祢第5、善地、八幡団地、上島、新原本村の8隊でした。

主な方法としては、民生委員や班長による家庭訪問となっていますが、善地では、リヤカー、車いす、乳母車等による搬送訓練を行っているとの回答がありました。

- (4) 負傷者の応急救護所等への搬送や高齢者・障害者の避難のために、リヤカーや乳母車を利用する訓練について

ア 現在実施している	4隊	4%
イ 今後実施する	6隊	7%
ウ できたら実施したい	63隊	69%
エ 実施しない	18隊	20%
計	91隊	

現在実施している：小松八幡、善地、八幡団地、新原本村

今後実施する：内野台4丁目、西美菌下、中瀬3区、赤佐3区、赤佐5区、梶池

7割近くの隊が「できたら実施したい」と回答しており、搬送訓練への関心が高いのですが、「実施しない」としている隊も含めて、リヤカーや乳母車が無く、保管場所も無いという課題を挙げています。

### 3 安否確認について

- (1) 安否確認の方法として、黄色いハンカチ作戦またはタオル作戦を小松南、永島、中区広沢自主防災隊及び富士宮市等で実施しています。貴自主防災隊では実施していますか。

ア 現在実施している	24隊	26%
イ 今後実施する	7隊	8%
ウ できたら実施したい	51隊	56%
エ 実施しない	9隊	10%
計	91隊	

現在実施している24隊のうち、浜名地区の隊が14隊ありました。

「今後実施する」および「できたら実施したい」が64%あり、前向きな回答結果となっています。やり方を教えてほしいという意見もありました。

「実施しない」とした隊からは、「小規模自治会なので直接確認できる」や「声かけ、現場確認を重点としたい」という回答がありました。

- (2) 西区大久保町自主防災隊では、事前配布した安否確認票を災害時に提出する仕組みを住民に浸透させています。これを防災訓練で実施する考えはありますか。

ア 現在実施している	5隊	5%
イ 今後実施する	9隊	10%
ウ できたら実施したい	61隊	67%
エ 実施しない	16隊	18%
計	91隊	

現在実施している：善地、永島、中瀬3区、赤佐2区、赤佐3区

「実施しない」や「できたら実施したい」とした隊では、「黄色いハンカチ作戦を実施しているため」や「個人情報保護の観点から難しい」といった回答がありましたが、「実施している」隊では、黄色いハンカチ作戦と同時に行っていたり、班長が各戸を確認して安否を報告するといった方法で実施されているようです。

- (3) 小松八幡自主防災隊では、「自助」、「共助」、「公助」に続き、「近助」：隣近所で助け合うことを提唱し、有事の際、確実な安否確認や情報伝達を実施できるよう、3～5世帯、20人前後の「防災隣組」を編成し、毎年、安否確認訓練を実施しています。貴自主防災隊では、どうですか。

ア 現在実施している	7隊	8%
イ 今後実施する	4隊	4%
ウ できたら実施したい	69隊	76%
エ 実施しない	11隊	12%
計	91隊	

「今後実施する」および「できたら実施したい」が80%あり、皆さんが隣近所での助け合いの重要性を認識されています。「実施しない」とした隊でも、これまでどおりの班単位での助け合いを行っていくとしており、「共助」や「近助」への理解はかなり進んでいると思われます。

4 その他、先進事例となる訓練等がありましたらご記入をお願いします。  
また、お気付きの点やご意見・ご要望等があれば記入してください。

[訓練について]

- ・ 年に一度、DIG訓練やHUG訓練、イメージTEN等の災害図上訓練を行っている。また、防災士や災害ボランティアコーディネーターを講師として招き、防災講座を行っている。
- ・ 共助の一環として、救護講習を年に2回計画している。第1回は中学生と高齢者の交流を予定。救護講習の受講者を増やして、災害に備えたい。
- ・ 自ら考案した訓練用消火器等を使用し、子どもたちが参加したくなる訓練への工夫を行っている。
- ・ 倒壊家屋からの救助訓練を実施する予定。救出方法を習得していきたい。
- ・ 3～4年に一度、土砂災害の避難訓練を実施している。
- ・ 従来の一時的避難場所（公民館）への集中避難は、二次災害の恐れがあるので、地域ごとに安全な場所に避難する分散型に訓練を見直したい。

[要支援者への対応について]

- ・ 高齢化が進むとともに支援が必要な方も増えてくるので、どのように支援していくのが問題であると思う。
- ・ 独自の防災隣組の組織があるので、この組織を活用し、要支援者の救護計画を立て、実施する方向である。

[自主防災隊について]

- ・ 自主防災隊長や役員が単年度で交代するため、組織の機能が弱い。新たな取組みを行うことも限界がある。
- ・ 区内の自主防災隊の情報が不足している。自主防災隊の集まりを開催し、情報交換ができれば、活動の参考になると思う。
- ・ 各自自主防災隊の先進的な取組みがわかれば、少しでも改善していきたい。

[啓発について]

- ・ 現在の防災では、災害が起きてからの訓練を行っているが、住宅の耐震化、家具の固定、配置の工夫等、平常時に行う対策について考えることも必要だと思う。特に、家具の固定については、固定の仕方の説明会を開催するとよいと思う。

[その他要望など]

- ・ 防災訓練がマンネリ化しないように工夫しなくてはいけないと考えているが、地域だけで訓練用機材や人材を手配することは困難である。市の協力をお願いしたい。
- ・ 洪水に備えてボート等を市で購入していただきたい。
- ・ 洪水においては、自主防災隊の装備では人命救助に無理があり、現状では早めの避難を心がけるしかない。情報を早めに伝達してほしい。
- ・ 洪水については何の意識もなく想定もしていなかった。まずは意識を持つことから始めようと思う。
- ・ 地域防災訓練計画会議においてアンケートを他の役員にも見せたところ、これまで知らなかった取組み（夜間訓練やリヤカーによる搬送等）に気づくことができ、訓練内容の検討が大変盛り上がった。今後の活動を考える良いきっかけとなった。
- ・ 先進地の前向きな取組み事例を紹介していただき、大変参考になった。今後はこれまでの訓練を確実に遂行していくとともに、先進地事例を折々に住民に周知しながら、取り組める事柄を少しずつでも加えていきたい。

浜北区自治会連合会調査研究委員会「防災アンケート」

浜北区自主防災隊連合会93隊中93隊が回答（回答率100%）

4 その他、先進事例となる訓練等がありましたらご記入をお願いします。

また、お気づきの点やご意見、ご要望等があれば記入してください。

備蓄品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当自主防災隊では、従前のアルファ米の他、今年度災害用トイレ・食糧・水・救急箱・消毒用消石灰などを追加し、3年がかりでさらに充実させる予定で。</li> <li>・地域の防災倉庫にある備品の周知と活用の習得を進めたい。</li> <li>・チェーンブロック、丸太、バール、ジャッキ等の購入と活用を図りたい。</li> </ul>
自主防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災隊は1年で交代する。組織的機能が弱い。</li> <li>・有隣町内会では、隊長・隊員とも単年度のため、新たな取り組みを行なうことに限界があります。各自治会の先進的な取り組みが分かれば、少しでも改善していきたいです。</li> <li>・町内住民の意識高揚に取り組んできていますが、訓練への参加者は固定してきていることが悩みです。今後は訓練内容を検討し、多くの参加者となるべくしていきたいと思います。</li> <li>・世帯数800超戸のうえ、広域の中で1防災隊となっており、当町内会での自主防災隊組織を根本的に見直した上で、アンケートの内容を考えるべきと思っています。自主防災隊の幹部は、他の町内会活動を兼務している人がほとんどで、これらを含めての組織作りの見直しが必要と考えています。ご指導いただける事がありましたらお願いします。</li> <li>・役員の高齢化、役員が毎年変わるので継続性が無い。</li> <li>・浜北区内の自主防の情報が不足しています。自主防の集まりを開催し、情報交換をしたらもっと活動の参考になると思います。住民の意識が不足しています。</li> <li>・やった方がよいことはたくさんあるが、住民のレベルをそこまで引き上げる必要があるか、どうすれば良いんだ！</li> </ul>
啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水については何の意識もなく想定もしていなかった。まずは意識を持つことから始めようと思う。</li> <li>・共助の一環として、救命講習を2回/年程度計画。第1回は10/26、北部中学校1年生（17名）の地域交流を高齢者と予定、救命受講者を増やして災害に対応できる組織を作りたい。</li> <li>・現在の防災は、災害が起きてからの訓練をしているが、平常時の事について、考える事も必要だと思う。住宅の耐震、家具の固定・配置、室内の整理、ガスの元栓の締め方、特に家具の固定・配置について、材料・マニュアル（取り付け）説明会を開くと良い。家具の下敷きになっては逃げるできない。</li> <li>・年一度災害図上訓練（DIG. HUG. イメージEN）防災講座を防災士、災害ボランティアコーディネーターの講師を招き講演を行っています。</li> </ul>
安否確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認の具体的なやり方などを詳しく知りたい。</li> <li>・毎年、各家庭の世帯名簿を各班長が確認し、有事の際に活用できるようにしている。（確認及び名簿の作成）又、アパート住まいの方の名簿が不十分である。</li> <li>・安否確認票について、詳しい情報があれば欲しい。</li> <li>・高齢者が多くなるに従い、要支援者が増えて来るので、それらの方々をどの様に助けて（支援）ゆくのが問題であると考えます。</li> <li>・毎年2回総合防災訓練日に安否確認訓練を実施しています。当町内には独自の防災隣組の組織があり、この組織を活用し要支援者救護の計画を立て実施する方向です。</li> </ul>

<p>防災訓練</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常時火災は消防（自衛消防）で初期消火につとめている。訓練は年6回行っている。消防の方は、設備が貧弱で消火活動が思うようにできない。</li> <li>・市の訓練用水消火器を参考に自ら考案した水道ホースを接続した訓練用消火器とバケツリレー用と共に仮想火元を作製し、12月の防災訓練時子供たちが参加したくなる訓練となり、また、遊び感覚も併せもって実施している。防災訓練がマンネリ化しないよう工夫しなくてはいけないと考えているが、町内会だけで訓練用機材、人材を手配することは困難であるため、市・区のご協力をお願いしたい。（例 地震体験機材、煙からの脱出訓練機材などの他AED、蘇生訓練用機材など）</li> <li>・今後、倒壊家屋からの救助訓練をやる予定。大工さんから柱を持って来てもらい、ジャッキを使用した訓練をやる予定です。</li> <li>・救出救助訓練で若連によるチェーンソー・バールによる木材切断訓練、「家屋倒壊を想定して」の実技訓練</li> <li>・倒壊家屋、転倒家具からの救出方法を習得していきたい。</li> <li>・当地区では3～4年に一度、土砂災害の避難訓練を実施しています。（堀谷）</li> </ul>
<p>避難所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所まで3km有ります。</li> <li>・避難場所が北部中学校となっているが、遠方の人には、そこまで行けるか不安である。将来的には区ごとの公民館等を高い建造物構造にすることによって、近いところに避難し、避難所としての有効活用が可能となるのではないかと思います。</li> <li>・従来的一次避難場所（公民館）への集中避難は、二次災害を招く恐れがあるので、地域ごとに安全な場所に避難する分散型に訓練を見直したい。</li> </ul>
<p>水害</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水防は水防団に任せる。18名善地、18名高菌南自治区</li> <li>・水防については、ボートを市の方で買ってほしい。</li> <li>・地形的に内野下町内は馬込川と御陣屋川の合流点に位置し、堤防の決壊による甚大な被害を受ける事を危惧しております。今の防災隊の装備では人命救助には無理があると思います。現状では早目の避難誘導を心掛けるだけだと思われます。情報を早目に伝達してくれると助かります。</li> <li>・水害では、土砂災害をごく一部の地域で考える必要が有ると考えていますが、その根拠になるデータが有りません。市のハザードマップでは、町内の危険個所まで読み取れない。水害、土砂災害対策を地域活動のテーマとすべきか、四丁目としては迷っている所です。</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進地の前向きな取組事例を数々紹介いただいて、たいへん参考になります。今後、現訓練内容を確実に遂行していくことと共に、先進地事例を住民に折々周知しながら取り組める事柄を少しずつでも加えてまいりたいと思います。</li> </ul>